

DBJグループには、前身組織設立以来70年もの間、社会課題の解決を通じて、培ってきた「強み」があります。この「強み」をもとに、リスクマネーやナレッジ等を活用したお客様の課題解決を通じた持続的成長を目指しており、「強み」をさらに伸ばすための施策にも取り組んでいます。

1 価値観「挑戦」・「誠実」と「4つのDNA」を兼ね備えた、ゼネラリストを超えたスペシャリスト

人的資本

DBJグループの価値創造の源泉といえるのが、「挑戦」と「誠実」という価値観、脈々と引き継がれてきた「長期性」「中立性」「パブリックマインド」「信頼性」という4つのDNAを持つ人材です。長期的な視座でお客様の経営課題や社会課題に向き合い、解決策を徹底的に追求していくためには、幅広い経験や奥深い知見、全体を俯瞰する力も重要となります。戦略的ローテーションや実践的なOJT、豊富な研修・外部経験機会等を通じ、様々な経験やスキルを獲得・伸長しながら有機的に結合・活用できる「ゼネラリストを超えたスペシャリスト」を育成しています。

📖 P.72 マテリアリティ5 金融フロンティアに挑戦する人材育成

価値観

挑戦 (Initiative)

誠実 (Integrity)

4つのDNA

長期性

中立性

パブリックマインド

信頼性

2 先駆的な金融力

知的資本

前身組織時代から企業の設備投資を支える長期融資に取り組み、企業分析力と事業性評価力を磨いてきました。加えて、プロジェクトファイナンスやPPP・PFI、アセットファイナンス、事業再生ファイナンスなどの先進的な金融手法を国内黎明期に導入し、豊富な実績と知見を蓄積してきました。

こうした強みを基盤にメザニンファイナンスやエクイティ投資などの投資業務も展開しています。DBJアセットマネジメントでは、不動産、プライベートエクイティ及びインフラストラクチャー分野に特化したユニークなオルタナティブ投資専門のアセットマネジメント業務を展開しています。

サステナビリティ領域においては、「DBJ環境格付」融資や「DBJ BCM格付」融資などを世界に先駆けて開発し、不動産分野でも「DBJ Green Building認証」を開発しました。

さらに、2026年には、レジリエンス分野におけるリスクファイナンスに関する国際標準規格 (ISO 37116 Risk Finance) 発行への寄与や、お客様の長期的な価値創造に伴走する「DBJ未来価値共創プログラム」の開始など、先駆的な取組を推進しています。

1998 国内初のプロジェクトファイナンスをアレンジ

2000 国内初のPFI案件を組成

2001 国内初のDIPファイナンスを実行

2004 世界初の融資メニュー「DBJ環境格付融資」開始

2011 「DBJ Green Building認証」開始

2014 日本の発行体として初めてグリーンボンドを発行

2026 「ISO 37116 Risk Finance」発行に寄与
「DBJ未来価値共創プログラム」開始

メザニンファイナンスやエクイティ投資など、
リスクマネー供給に注力

📖 P.66 マテリアリティ4 レジリエンス社会の実現に向けた事前投資について ～DBJ BCM格付のあゆみ及びリスクファイナンスの国際標準規格の発行への貢献～

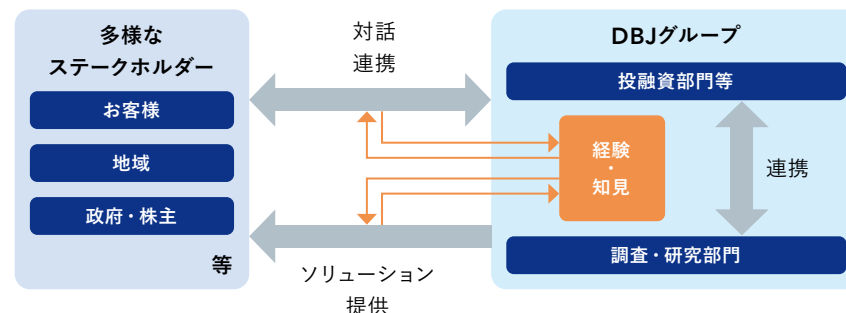
📖 P.67 マテリアリティ4 お客様の長期的な価値創造を支える伴走対話の強化 ～「DBJ未来価値共創プログラム」の開発～

3 3つの重点領域で蓄積してきた豊富な経験・知見

知的資本

戦後復興から今日に至るまで、投融資活動等を通じて培ってきた3つの重点領域（インフラ・産業・地域）における豊富な経験・知見は、時代の一步先を見据えながらお客様や社会の課題の解決に貢献していくうえで、DBJグループの基盤となるものです。

産業や地域を軸にした調査・研究、情報発信等をグループ一体で展開しており、これらはお客様との対話（エンゲージメント活動）や投融資活動の礎になっています。1956年以来70年の歴史を持つ「設備投資計画調査」は、毎年実施している独自の調査ですが、調査結果を踏まえ、数多くの企業トップの方と対談・意見交換を実施しています。



4 多様なステークホルダーとの信頼関係

社会・関係資本

DBJグループは、全国及び海外に拠点を展開する金融機関として、幅広いお客様と向き合い、長期的な視点に基づく対話と伴走型のサポートを重ねてきました。政府とは、戦後の復興期から今日に至るまで、我が国の経済・社会の発展を支えるべく密接に連携し、社会課題や経済課題への対応に取り組んできました。また、地方自治体や地域金融機関、大学などと連携し、単独では対応が難しい地域課題にも取り組んでいます。

中立的な立場と高い公共性を重視する姿勢のもとで培われた多様なステークホルダーとの信頼関係を基盤に、DBJグループは連携・協働のハブとしての役割を果たし、価値創造につなげています。

📖 P.27 ステークホルダーとの連携・協働

